

VOL.7

2025.8.7発行

ハンダタイムズ

故 橋田寛会長追悼特別号

2025年6月27日にご逝去された、ハンダ技研工業の創業者である橋田会長を偲び、追悼企画を掲載いたします。橋田会長のこれまでの歩みをご存知の皆さんより、メッセージをいただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



昭和13年11月12日、愛媛県今治市にて誕生。

14歳の頃、大阪へ移り住み、果物屋・ボロ屋・八百屋など様々な仕事に従事。その後、17歳で製造業と出会われました。

現場では、昼休みの時間を使って技術を磨き、先輩の作業を熱心に観察しては自らの成長につなげていく日々。7度の転職を経て高尾金属に入社されます。

ある日の昼休み、ふと空を見上げたとき、宇宙の果てしない広さに圧倒され、「自分は何のために生まれ、何を残せるのか」と深く自問自答されました。そのとき「橋田寛の生きた証を残したい」と強く心に誓ったと言います。

常に職場で最も優れた人を目標とし、「その人を超えるにはどうすべきか」を考えながら努力を重ね、やがてナンバーワンと評される存在に。23歳で新工場の工場長に抜擢され、26歳のときに「このままで良いのか」と悩み、より広い世界で自分の力を試した

いと独立を決意。「橋田製作所」を創業されました。

創業後の石油ショックでは、自らの給与を5年間、月額30万円に抑える覚悟で経営にあたりました。それは「会社と一心同体である」との強い想いからでした。

平成4年、夢の中で誰かが語りかけてきました。

「お前は必死に前を向いて走り続けているが、もしものことがあったらどうする。お前の会社には「1番」はいても、2番・3番・4番がない。人が育っていないのに会社だけ大きくなってしまっているのではないか。」

この夢をきっかけに、人材育成の重要性を再認識。「人づくりをすべてに優先する」と固く決意され、後の「ハンダ塾」設立へとつながります。人材育成の面では、T先生との出会いを経て確立された会長の理念が今なお多くの社員の中に息づいています。

橋田会長が遺した教えを未来へ

「橋田会長」という存在

豪快さと愛情、24年の軌跡

私が18歳で出会った会長は、当時65歳くらいで、お酒を愛する豪快な方でした。仕事は非常に厳しく、遊ぶときは思いっきり遊ぶ、その両方を徹底されていました。20代前半から可愛がっていただき、自宅でバーベキューや天ぷらを振る舞っていただきました。特に印象深いのは、大好物だったフグ料理です。会長は「鍋奉行」で、最後まで自分で作ってくれました。

ゴルフは19歳、麻雀は25歳過ぎから教わりました。「いかに振り込まないか」という防御のスタンスを学び、最近まで毎月のように麻雀を共にしていました。何事にも一生懸命なところ、そして社員を含め「人」を大切にされるところが会長の魅力です。厳しさの中に愛情を感じ、喜んでくれたときの最高の笑顔が忘れられません。会長は私にとって親以上の存在であり、会長も生前、「俺はお前を息子だと思っているよ」と言ってくれました。

経営者としての影響

受け継がれる経営哲学と人との繋がり

経営者としての会長の教えで最も心に刺さっているのは、「人との繋がりを大事にしろ」という言葉です。「どこでどう助けられるかわからない。だから人との繋がりを大事にしないといけない」という教えは、以来、私の経営の肝になっています。

会長はまた、社員が年を取っても元気なうちはいつまでも働いてほしいというスタンスでした。実際に87歳の方が今も工場に働いており、「こんな会社、本当にないわ」と喜んでくれています。この「姥捨て山みたいなことはいらない」という姿勢は、私も経営で肝に銘じています。創業期に苦勞された会長は、お金の大切さも厳しく教えてくれました。「無駄遣いするな」「仕入れは1円単位でも安く」と。生涯そろばんを使っていたほどです。会長は、会社を大きくされたカリスマ性のある方でした。



代表取締役社長

よしおか

みちひろ

吉岡 亨浩 さん



ハンダ技研工業の未来

社員と会社の明るい未来へ

会長の教えや心は社員の皆さんの心に生き続けていると思います。会長が教えてくれた良い点は守りつつ、思い描いた理想の会社を維持・発展させることが、私にできる唯一の親孝行です。

社員の皆さんが「自分のために働いている」と感じられるよう、会社を発展させること。そして、1人当たりの利益を増やし、1円でも多く給料を手にできるようにすること。お客様からの信頼ももちろん大切ですが、社員の皆さんにとって「ハンダ技研工業で働いて良かった」と思ってもらえる会社になりたいと考えています。



メッセージ

会長の遺志を永遠に

会長は生前、「散骨をしてほしい。暗い墓は嫌だ、広い海に自由にさせてくれ」と話していました。私の心が落ち着いた頃に、期限を決めずに散骨したいと考えています。

そして、皆さんは会長のことを決して忘れないでください。私自身、会長のおかげでここまで来られました。皆さんも、会長との思い出を忘れないでください。会長を知らない社員の方にも、橋田寛という創業者がいたからこそ、今の私たちの生活があることを知ってほしいと思います。

また、名阪工場に記念碑を建設したいと考えています。ハンダ技研工業が続く限り、会長は忘れてはならない大切な方です。会長はいなくなっていますが、心の中では生き続けてくれると信じています。この親孝行を実行するためにも、皆さんと共に引き続き頑張りたいと強く感じました。

受け継がれる挑戦の魂 感謝を胸に、未来を拓く

当社の礎を築き、私たちに大きな影響を与え続けた橋田会長。その豪快な人柄と深い愛情は、今も心に強く刻まれています。ときに厳しく、ときに温かい眼差しで導いてくださいました。

橋田会長の教を胸に、私たちは前へ進みます。

会長との思い出

大抜擢の裏にあった信頼と、 仕事観を変えた一言

私が入社3年で工場マネージャーに抜擢されたのは大きな転機でした。「なぜ自分が」と悩んだ時期もありましたが、後に会長が周囲を説得していたと知ったのです。勤続年数に関係なくチャンスを与える方だと改めて認識しました。また、仕事一辺倒だった私に「仕事ができるならしっかり遊べ」と教えてくれたのも会長です。「仕事も遊びも真剣に」という言葉をきっかけに、仕事以外の世界を持つ大切さを学びました。

取締役

Y. T さん



会長との思い出

台風の夜に見た気遣い

私が入社した20数年前、金型製作で繁忙だった名阪工場が台風で停電に見舞われました。視察に来ていた会長は「慌ててもしゃあないやろ」と動じず、夜には「お前ら腹減つとるやろ」と私たちを夕食に連れ出してくださったのです。その温かい気遣いの一方で、作業が滞ると「グラインダー持ってこい!」と自ら手を動かす豪快な一面もお持ちでした。

取締役

S. M さん



会長への感謝の想い

厳しさの奥にあった深い信頼

人一倍怒られ、「会社に必要ない」とまで言われたこともあります。それでも私を見捨てず、可能性を信じ続けてくれました。会長が辛抱強く向き合ってくださなければ、今の私はいません。M&A事業で各地の工場へ赴くたび、「もうここはきみ以外ダメなんだ」と声をかけてくださいました。この一言が、何よりの励みになったのです。そして、新しいことに挑戦する私の大きな原動力であり続けました。

今後の決意

受け継いだ挑戦の魂で、 まだ見ぬ未来を切り拓く

これからは、会長ですらできなかったような新たな挑戦を、派手にやっていきたいと考えています。会長は晩年、従業員の環境改善を氣にかけていました。その想いを引き継ぎ、職場環境の向上を着実に進めてまいります。同時に、私たちにしかできないことを見つけ、会社の未来を切り拓きたい。それが会長への一番の恩返しになると信じています。

今後の決意

会長から預かったこの会社を、次の世代へ

気づけば私自身が、入社当時に見ていた会長の年齢に近づいてきました。今、当時の会長の姿を思い浮かべながら、「自分はこのときの会長のようにできているだろうか」と自問自答する毎日です。会長から預かったこの会社を、これからも大事に育て、しっかりと次の世代に引き継いでいく。それが、今の私の何よりの決意です。

会長への感謝の想い

口出しはしない。でも、決して目は離さない

会長から仕事のやり方について細かく指示をされた記憶はありません。「お前の部門はどうなってんだ」と氣にかけてはくださるものの、基本的には信頼して任せてくれていました。結果さえきちんと出せば、何も言わない。そのおかげで、私たちは非常に仕事がしやすかったと思います。写真の笑顔の通り、人を引きつける魅力があり、本当に「いい親父さん」でした。

会長との思い出

「家族だからこそ」の愛情と成長の軌跡

一番印象深いのは、会長に厳しく叱っていただいたことです。取締役に就いたばかりの頃、私の感情的な言動で会社に影響を及ぼしかねないことがありました。会長は1か月以上も怒り続け、始末書を提出しても許してもらえず、会社を辞めようかとまで考えたほどです。しかし、周囲の協力もあり、最終的には許していただくことができました。この経験で私の考え方は180度変わりました。今の私があるのは厳しく接してもらえたおかげだと心から感謝しています。

会長への感謝の想い

多くの経験が成長の糧に

M&Aの度に経理を担当したり、未経験の人事や監査委員、懲罰委員まで経験させてもらったりと、通常では若い頃にはできない経験を積ませてもらいました。会長の信頼が、私の成長に繋がったと確信しています。やり遂げた後、「ようやくったな」と最高の笑顔で言ってくれたときは、本当に嬉しく、次も頑張ろうと思えました。

会長との思い出

親心に支えられた入社当時

私と吉岡社長は同期で、2002年に入社しました。会長には入社当時から特に目をかけていただき、入社3、4か月で新規事業の立ち上げ責任者に任命されました。会長自ら「シーマ」に乗せて取引先との打ち合わせに連れて行ってくださることもあり、今思えば、私に何か経験させたいという親心があったのだと思います。

ハンダ塾のテーマとなった言葉

取引先との打ち合わせがスムーズに進んだ際、会長は私の「理解力と伝達力」を褒めてくださいました。この言葉は、ハンダ技研の教育プログラム「ハンダ塾」のテーマの1つです。会長は私の強みを見つけ、自信を持たせてくれたのでしょう。その後も私は新規案件を多く経験し、それらすべてをやり遂げられたのは、会長が私を育ててくれたおかげだと感謝しています。

家族同然の付き合い

会長は仕事だけでなく、プライベートでも家族同然のように接してくださいました。よく食事に連れて行ってくれたり、自宅に招いてくれたりして、会長が大好きなカニをご馳走になりました。食事の際には「思いやりをもって従業員に接さなアカンよ」と一言アドバイスも。麻雀も大好きで、勝負事には負けるのが嫌いな一面もあり、遊びも仕事も思い切りやる、人間味あふれる豪快な方でした。

今後の決意

会長の理念を受け継ぎ、会社を成長させる

お通夜と葬式で「いってらっしゃい」「ありがとう」「頑張ります」の3つを伝えました。特に、これまでの100%から限界を超えて120%の力で仕事に邁進する決意を込めました。今後も会長のように現場の声を直接聞き、工場の利益を上げていくことに注力します。会長は常に「会社を300年も500年も続く会社にした」と仰っていました。その理念を受け継ぎ、私自身が成長し、他の社員も育成することで、会長の思いを伝えていくことが私の使命です。叱ってくれてありがとうございます。その厳しさがあったからこそ今の私があり、会社を成長させたいという会長の思いを胸に、これからも常に成長し続けます。

取締役

D. H さん



会長への感謝の想い

多くの新規案件を任せていただき経験を積ませていただいたことに深く感謝しています。会長の「人を育成することへの強い思いが、今の私の原点です。」

今後の決意

会長が残してくれたこの会社を、私たちが継続させていくことが最大の供養になると考えています。会長のように、遊びも仕事も全力で取り組み、会社を牽引してまいります。

専務取締役

N. I さん

